

# 単元名 「提言しよう 私の意見 —SDGsを通して白州の未来を創る—」

第3学年

## ◆本実践の概要

本校は、国内有数の標高を誇る甲斐駒ヶ岳の東に位置し、豊かな自然、古くからの歴史と伝統、文化が息づく落ち着いた環境にある。現在は、日本の名水百選にも選ばれる水資源を中心に有名企業が工場を展開したり、夏場は涼を求めて多くの観光客が訪れたりする地域になっている。昨今は少子高齢化の影響もあり中学生の人数も減ってきている。そのような中でSDGsを視点に地域活性化への思いを中学生なりに提言としてまとめていくことをねらいとしている。これまでの地域学習とは異なる視点から地域について考え、新たな地域の魅力に気付くなかで中学生としての地域貢献を考えていきたい。

## 1 単元の目標

- (1) 地域の人々の地域活性化への思いやSDGsと自分達の生活のつながりを理解し、目的や対象に応じた表現方法を身に付けている。
- (2) 方法や手順を考え、見通しをもって計画を立て課題解決を図る中で、計画を修正したり情報を収集し直したり、よりよい提言となるよう改善策を考えている。
- (3) 自他のよさを生かしながら協力して問題の解決に向けた探究活動に取り組もうとしている。

## 2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①地域の人々の地域活性化への思いを理解している。 ②地域の人に伝わりやすい表現方法をするなど、探究の過程に応じた技能を身に付けている。 ③持続可能な社会の実現に向け考えを深めていることは、SDGsと自分たちの生活のつながりに深く関わっていることに気付いている。	①地域課題を適切に把握し課題設定を行い、解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てている。 ②目的に応じて手段を選択し、適切な方法で情報を収集、蓄積している。 ③事象や考えを比較したり因果関係を推論したりして考え、視点を定めて多様な情報を分析している。 ④学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かそうとしている。	①探究的な活動を通して、異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重しようとしている。 ②自他のよさを生かしながら協力して問題の解決に向けた探究活動に取り組もうとしている。 ③探究的な活動を通して、進んで実社会・実生活の問題解決に取り組むとともに、積極的に地域の活動に参加しようとしている。

## 3 単元について

本単元はSDGsと自分たちの生活とのつながりを学ぶことを通して、持続可能な社会の実現に必要なものは何か、探究的な学習のプロセスをたどり自分の意見を提言することを目的としている。探究活動を進めていくにあたっては、活動計画を見直したり、提言内容を改善したりしていく場面を大切にす。提言する際には目的意識をもたせ、何のために提言をするのかを常に考えさせる。その上で情報を構造化したり抽象化したりしながら、相手により伝わる内容や方法を考えさせたい。

#### 4 指導と評価の計画

	ねらい・学習活動(抜粋)	評価規準(評価方法)		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	・SDGsについて学ぶ。①(ユニセフ・外務省の動画)			主③(ワークシート記述)
2 3 4	・SDGsの取組の現状について情報を収集する。	知①(ワークシート記述)		
5 6	・SDGsについて学ぶ。②(講師の先生による講義)	知③(行動観察)		
7	・地域課題について考え、グループの課題・仮説を設定する。			主②(ワークシート記述)
8	・課題の解決に向けた研究計画を立てる。		思①(ワークシート記述)	
9 10 25	・課題について調べる。 ・アンケート調査を実施する。 ・課題の再設定、調査計画の見直しを行う。 ・アンケート内容を考察する。 ・各グループの意見を提言としてまとめる。 ・クラス内での中間発表を行う。	知②(パワーポイント資料)	思① 思② 思③ 思④ (パワーポイント資料)	主①(行動観察) 主②(行動観察)
26 27 28	・グループでまとめた内容をクラスで発表する。	知③(パワーポイント資料)		主①(ワークシート記述)
29 30	・地方自治体や企業、新聞社等に連絡をとり提言を外部に向けて発表する。	知②(発表観察)	思③(パワーポイント資料)	
31 32 35	・提言した内容を成果と課題としてまとめていく。		思④(ワークシート記述)	主③(ワークシート記述)

#### 5 本時の授業(第15時)

##### (1) 本時の目標

- ・自らの提言内容や方法を他者からの意見を取り入れ再構築し、課題解決に向けて解決の方向、手順について見通しをもった計画を立てている。

##### (2) 本時の評価計画

- ・他者からの意見やアドバイスを基に、自らの提言を見直し、課題解決に向けて内容や方法・手順について考え計画を立てている。

【思考・判断・表現①】

(3) 本時の実際

過程	主な学習活動と生徒の反応	評価と配慮事項
<p>つかむ</p> <p>15分</p>	<p>○思考ツール(Xチャート)を活用して自分の発表内容を分析する。</p> <div data-bbox="256 257 1123 398" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【学習課題】 自分達の提言をより良いものにするために、内容を見直し今後の計画について考えていこう</p> </div> <p>○個人で自分達の発表について分析をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果が足りなかった</li> <li>・調査内容が足りなかった</li> <li>・インタビュー等ができると根拠があってよかった 等</li> </ul> <p>○発表グループで自分達の発表について分析をする。</p> <div data-bbox="256 667 608 898"> </div> <div data-bbox="256 936 608 1167"> </div>	<p>・ワークシートの思考ツールを活用して現在の探究活動の現状を可視化する。</p> <div data-bbox="644 651 1422 869" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; background-color: #ffffcc; padding: 10px;"> <p>生徒は普段の授業から自分の考えを整理したり、考えを視覚的に捉えたりするために思考ツールを使用している。中間発表をする前後で付箋の色を変え自分達の提言内容の分析を行うことで、提言内容を明確化したり、現状に対する課題点に気付かせたりさせた。</p> </div> <div data-bbox="970 891 1086 965" style="text-align: center;"> </div> <div data-bbox="644 976 1422 1167" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; background-color: #ffffcc; padding: 10px;"> <p>個人での分析のあとに、グループでの分析を行うことで主体的に取り組んだ。思考ツールを用いて骨子が可視化されているので、グループでの分析の論点が明確になり対話的な学習を充実させることにつながった。</p> </div>
<p>考える</p> <p>15分</p>	<p>○生徒や教師からの助言から、さらに情報収集をしなければいけない点について計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート調査の追加</li> <li>・インタビューの実施</li> </ul> <p>15分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・価格について他の学校との比較</li> <li>・新しい制服を使用することによる課題点 等</li> </ul> <div data-bbox="804 1272 1123 1487"> </div>	<p>・ワークシート、PowerPointにまとめた内容を修正したり、新しい情報をまとめたりする。</p>
<p>深める</p> <p>10分</p>	<p>○課題の修正や発表に関わり表現方法等をどのように改善していくのか計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提示資料を工夫する</li> <li>・提言の構成について修正をする</li> <li>・根拠をもった発表にするために参考文献を加える 等</li> </ul> <div data-bbox="256 1727 719 2033"> </div>	<p>○思考・判断・表現① (ワークシート・PowerPoint資料)</p> <div data-bbox="767 1771 1414 1962" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; background-color: #ffffcc; padding: 10px;"> <p>よりよい提言内容にしていくためには資料をブラッシュアップしていく必要がある。そのために1人1台端末を活用することで、資料の修正や工夫が容易に行えた。</p> </div>

ま と め る  5 分	<p>○本時の内容の確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・探究活動のなかでは調整をしていくことが大事</li> <li>・相手意識をもちながら資料を作成していくこと 等</li> </ul> <p>○次回の計画の確認をする。</p>	
		<p>本時後にはインターネットでの調査やアンケート機能を用いての調査が行われた。本時で気付いた多角的な視点をもとに相手意識をもった資料を作成し、提言にまとめていくことができた。</p>

## 6 実践を振り返って

SDGsを学びの中心に据え探究活動を進めてきた。生徒は、学習を始めた際SDGsという言葉は知っているものの具体的な内容については知らない様子であった。また、世界規模で考えられていることと自分達の生活とのつながりをイメージできなかつたり、答えのないゴールに向かい計画を進めていくことへの不安を抱いたりする生徒もいた。しかし、自らの興味・関心のあるテーマ設定ができたことから、多くの生徒が課題解決に向けて主体的に情報収集に取り組んだ。さらに、学びを進めていくなかで曖昧であったゴールイメージが徐々に明確になってきている生徒も多くなった。

本実践では、「思考ツール」を活用することを手段として取り入れた。思考ツールを用いてグループの提言の骨子を視覚化することで提言内容を明確化していくことを意識した。実践で用いたXチャートでは、①調査内容(視点の多様性)②考察内容(相手意識をもったものになっていたか)③提言内容(中学生に実現可能なのか)④提言の課題点(期間・価格等について)について分析を行った。視点を明確にして焦点を絞ることで、グループでの対話的な学びが活発に行えた。そのことによって、課題解決の方法や手順が明確になり、今後の学習計画を具体的に立てることができた。

また、中間発表会を実施し、他者からの意見やアドバイスを基に自らの考えを修正したり内容や計画等を再設定したり、改善したりする場面を設けた。中間発表会には、生徒だけではなく教員にも参加してもらうことで多角的な視点から助言をもらうことができ、よりよい提言としていくための改善につながった。最終的には、市の教育長に提言することとし、生徒は相手意識を明確にし、内容を改善した。

生徒のワークシートから、「インタビューを行う」「アンケート調査を実施する」「根拠を明確にする」などの記述が見られた。中間発表を終え、課題に対して解決方法や手段を明確にしようとする姿や、実際に行動に移すことで新たな課題点に気づき、提言内容をよりよいものにしていくようにさらに行動していく姿を見ることができた。